

### 球磨南部土地改良事業所

いまから約二七十年前の元禄年間、球磨郡の球磨川南岸の農民達は、現代の私たちが驚くほどの、大きな農業土木工事を完成してしまふ。

百太郎溝と幸野溝という二つの農業用水路がそれで、上球磨地方の農業は、この用水路なしでは、語れないほど、大きな役割を果たしてききました。

しかし、さすがに、この幹線用水路も、古くなってききました。まず、大部分が素掘りのままであるため、水漏れがはげしく、また、耕作面積が増えてきていたので、昔のままの規模では、十分まかない切れなくなりました。

それに、溝と小さな河川との交差する部分の工事が幼稚であるため、洪水の時には、災害を受けやすく、これまで何回

かの改修は、行なわれてきましたが、やはり、ここで根本的な改修が必要になってきたわけです。

一方、球磨川上流、水上村に、県営の市房ダムが建設されることになりました。

このダムは、洪水を調節し、電気を起こし、それに農業用水に役立てる。ねらいを持った、所謂、多目的ダムです。当然、上球磨の土地改良に非常に期待されたわけです。

「球磨南部土地改良事業所」は、こうした背景のなかで、昭和三十三年十月に発足しました。

二十五名の県職員が勤務しています。この土地改良事業は、百太郎溝一万六千坪の改修、および一万三千坪の新設が主で、総工費八億一千万円と見込んでいます。この事業が完成しますと、米に換算して、年収二千三百トンの増収となる見込みで、新しく畑として使えるようになるところが、六百餘ふえることになりま

す。むろん、これまでの水田は、まず水の心配はなくなり、地元も非常な期待をかけて、協力しているため、工事は予定通り進み、現在八〇%が完成しています。

しかし、これだけの大仕事を、僅かな職員で担当しているため、残業につき残業で、毎日、目の廻るような忙しさで、

トンネル二ヶ所、サイフォン五ヶ所、水路の橋五ヶ所と、新しい農業土木技術の粋を集めたこの改良事業は、昭和四二年の完成をめざして、着々と進んでい

「うちの牛に限って」などといっているわけには、いかないようです。

また、こんな状態では、高い金をかけて、家畜を入れたり、集約的な畜産経営にすると、不安になるでしょう。

このような不安をなくするためにあるのが家畜共済です。つまり家畜共済は、家畜が、病気や怪我で受けた損失や、死んだりした時の補償をする制度です。

大きく開いて運転してください。」

また、八代郡東陽村種山小学校内之木分場の小学四年の青木はるよちゃん、山鹿市の横断歩道で、幼稚園の園児が黄色い旗をしっかりと手に握って、ダンブカーにはねられたことをテレビでみて、「横断歩道は、私たちが歩いてわたる道路の橋です。黄色い旗は、只今、歩道を渡っていますので車は待っていてください」という印の旗です。小さい子供が、「歩く人の旗」を、しかも黄色い旗をかざして通っているのに、ダンブのおじさんは、どうしてひいたのですか。

おじさんたちが、きまり守ってくれなかつたら、私たちは学校へも、お使いにもいられないのです。」と強く訴えています。

そして歩行者にも、『歩行者は交通の王さま』とよくいいますが、王さまがきまった歩道を渡らず、車の前や危ない所を、チョコチョコと横切って通ることがよくあります。王さまは王さまらしく、きまった所をきまった通りにどうとうと歩くようにしたい。』と呼びかけています。

「交通事故0」へ、運転する人も歩行者も協力していきたいものです。

### 家畜共済制度

「私の家では家畜の病気は初めてですよ。」とか、「おじいさんの代には、一度馬を死なせたことがあるけど」などとい

決して少なくありません。ことに最近の家畜の病気は獣医学や、薬学の進歩とは裏腹に根強いものになってきています。また最近では病気の種類も多くなりま

た。

去年一年間で、馬や牛が病気にかかったり、怪我をしたのは県下の全部の五二%にも達しています。こうしてみますと

たえば、六〇%近くの乳牛が家畜共済に加入している組合では、一万五千元ほどの掛金で、乳牛が死んだ時は一〇万円の共済金が支払われています。しかし、四九%ほどしか加入していない組合では、二万五千元以上の掛金が必要になっています。もし、この組合が百%共済に加入したら、掛金も今の半分で済むわけ

このほか、家畜共済に入っておきますと家畜が怪我をしたり、病気になったときにもある程度までの診療費は、ただになりまふし、その上健康検査や飼育管理の指導も受けられます。

経営を安定させるためにも、家畜共済制度をもっと活用されたら如何でしょうか。

### 交通犠牲者の妻・母の手記より

#### 妻・母の手記より

秋の全国交通安全運動旬間が、十月二十五日から始まりますが、熊本県交通安全推進本部では、これに先立って、交通事故犠牲者の妻・母の手記。それに学童の交通安全作文を募集しました。お寄せ

その悲しみと怒りを、次のように手記の中に記したためています。

「今日も訪れる雨の足音に胸を締めつけられる思いで、又しても、あの日のでき事を思い出さずにはいられません。

雨にうたれた道路は、黒ダイヤのように底光りしが、鏡のように冷たく光るアスファルトの路が、私と娘の大切な宝を奪いました。

「よけていたのに、おれはどうしているのだ。帰るんだ、おろしてくれ」と自動車なかでせがむ夫の痛々しい顔。吹き出す血で私の膝や手、顔、主人の血で彩どられてしまいました。宇土市の網田から熊本の病院へと運ぶのに、その時ほど時間もどかしく、まだかしらと心があせったことはありません。

翌朝、皆んなの祈りも空しく、夫は息をひきとりました。人目もわきまえず、夫の身体にすがって泣きました。

大海原に放り出された親子舟は、これから何をささえに漕いで行けばよいのでしょうか。しつかり娘の手をとり、雨にさらされても、嵐と争って生きて行かねばなりません。

事故に直面した家族の者だけが味わう、この気持は、決し、ほかにはわかって貰えないと思います。このような苦しみ悲しみは、私だけで、もう沢山と叫びたい。どうぞ人の命をもう少し尊重してください。事故が起つてからでは間に合いません。ハンドルをとる手に心と目を

国道三号線などを行くと交通事故多発地点という標示をよく見かけます。この事故多発地点ですが、統計によると、真直ぐで、平坦な道が二ヶ所三ヶ所続いたあとの大きなカーブ地点が、最も多いとされています。

坦々とした道路をかなりの時間走っているとよく、一種の催眠状態におち入ることがあります。

こんな実験があります。暗い部屋で、被験者に小さな光点をみつめさせ、光点を一定間隔で点滅させると、たいていの人が、ある夢幻状態になります。すると、ないはずの物体が一瞬見えたりするそうです。道路上の、特に夜間に、一定間隔で走りすぎるセンターの白線が、この光点に似た刺激を与えることも考えられるわけです。

こうした催眠状態は「ハイウェイ・ヒプノシス」(高速道路催眠)と呼ばれています。私たちは、確かに単調な刺激によって眠けを催すことを、よく日常生活のなかで経験するものです。汽車の単調な響きでウトウトしますし、また、新しいところでは、「雨だれ睡眠器」なる機械もあるそうです。これは、機械でポツン、ポツンという雨だれの擬音を枕もとでさせると、不眠症の人でも眠れるというものと、か。

居眠り運転で、とんでもない事故を起こすのも、この高速道路催眠によるものが多いといえます。

### 交通安全メモ

熊本県では、農政の重要な施策として農業構造改善事業が進められ、その基幹作物の中にも、乳牛や肉用の牛などが、随分とりいれられています。乳牛の飼育数も、三八年には、およそ二万五千頭と三四年の一万一千頭比べて、二倍以上の伸びを示しています。こうした、せっかく高い金をかけた家畜が、病気や怪我をしたり、死んだりしたら大きな損失です。どんなに可愛がっても、不慮の事故は仲々避けられないものですから、そのためにも、家畜共済に加入されるよう、おすすめします。

ところで、「家畜共済に入りたいたのだが、掛金が高くて」ということもよく聞く言葉です。では何故掛金が高いのでしょうか。それはいまのところ、家畜共済の加入者が少ないからなのです。加入者が少ないと、自然、掛金は高くなるわけです。ところが、これから家畜共済に入ろうとする人は、掛金が高いからといって入らない。そこで加入率が悪くなる。

こういった悪循環をくりかえしているわけです。

たえば、六〇%近くの乳牛が家畜共済に加入している組合では、一万五千元ほどの掛金で、乳牛が死んだ時は一〇万円の共済金が支払われています。しかし、四九%ほどしか加入していない組合では、二万五千元以上の掛金が必要になっています。もし、この組合が百%共済に加入したら、掛金も今の半分で済むわけ